

災害避難時の水供給訓練

首都直下地震の発生時に断水地域で水を供給する訓練が

東京都や県内などで実施され、横浜市水道局は24日、学校や病院に設置されている受水槽を活用した訓練に臨んだ。給水車が受水槽に給水し、これを避難者が使用すること、給水車に避難者の長い行列ができ、給水車が足止めされる課題の解消につながる。市は今回の結果を踏まえ、今

後の活用に向けた検証を進める。

訓練は、横浜や川崎など5会場、22日に始まり、札幌など全国17市の水道事業者も参加した。横浜市には災害時の相互応援協定を結んでいる名古屋市上下水道局の職員や給水車が駆け付けた。

地域防災拠点に指定されている横浜市瀬谷区の市立三ツ境小学校では、給水車が容量

市水道局 給水車 ▶ 受水槽 ▶ 避難者



受水槽（手前）に給水車から水を供給する名古屋市と横浜市の職員

22日の受水槽にホースで給水し、受水槽の蛇口から水が使用できることを確認した。訓練に参加した三ツ境小地域防災拠点事務局長の白川一義さんは「受水槽からの給水がで

給水車の足止め解消期待

「きれば心強い」と話した。

学校の受水槽にためた水はかつて、飲料水に使用していた。近年はより新鮮な水を供給するシステムへの移行が進んでおり、受水槽は校内のトイレなど生活用水に使われている。市内の学校には使用可能な受水槽が約250か所あり、加納重雄市議（瀬谷区選出）らが災害時に活用できると市に提案していた。加納市議は「複数の供給方法がある」と安心」と、受水槽の活用を期待を寄せていた。